

多国籍チーム



日本取引所グループ グローバル戦略担当執行役
吉田正紀

10年前、IMF（国際通貨基金）でチェコ担当のエコノミストをしていた時のこと。毎年2回ほど、当局との政策対話のためのミッション・チームを率いてプラハを訪れていた。

この時のミッションでは、トルコ出身で民間金融機関経験のある金融・為替政策担当、スペイン出身でアカデミックな経験のある財政政策担当、モルドバ出身で政府部門経験のある構造政策担当、イラン出身でシカゴ大学で経済学のPh.D.を取得したばかりの新人研修生の4人を引き連れ、当局との折衝・調整に当たった。

2週間ほどホテルに詰め、日々、当局との会議を終えては私の部屋に集合、その後の日程の進め方や、ミッション後にまとめる政策提言の方向性について議論する。その後、息抜きと親睦を兼ねて全員で食事に出るのだから、これがなかなか一筋縄ではいかない。ビールを飲まない者もとより（せっかくのチェコなのに）、ベジタリアン、豚・牛を食べない者、逆に豚が大好きな者（チェコやハンガリーなど近隣諸国では豚料理がスペシャリティー）。誰でもが満足できるレストランを探しては（探すのはミッション・チーフの仕事）、それぞれ勝手に注文する。

人の食べるものにはコメントせず、政治・宗教の話も避け、家族のことも当たり障りのない話題以外はしない。最初は皆、慎重だけど徐々に距離感・間合いが分かってくる。あとは趣味などの話題で盛り上がる。